

中間評価	
○ 成果と▽ 課題	● ▼ 期末への方策等
【第1学年】 ○日記指導をして、生活科で経験したこと、行事が終わると日記を書くようにしている。単語だけの表現ではなく、文で表現できるようになってきた。 ○学習の振り返りを言葉で伝えられるようになった。 ▽たしざん、ひきざんがすらすら計算することが難しい児童が多い。 【第2学年】 ○単語の意味を知り、場面や登場人物の心情に合わせた音読ができるようになってきた。 ○長さや体積の測定などの活動を通して、量的感覚が身に付いてきた。 ▽漢字の定着に個人差が大きく見られる。 【第3学年】 ○発表時には、発表者の方に体を向けるよう声をかけたので、姿勢が定着しつつある。 ○算数の四則演算の基本が定着してきた。 ▽新聞作りや日記を通して書くことを充実させたが、文を書く量や内容は個人差が大きい。 【第4学年】 ○国語辞典を積極的に活用することで、多くの語彙を獲得することができた。 ○話し合い活動を積極的に取り入れることで、考えを深めたり広げたりすることができ、学習内容の理解が深まった。 ▽学習内容の定着の個人差が大きい。 【第5学年】 ○「季節の良いところ」作りや、移動教室・社会科見学新聞作りなどを積極的に行うことで、自分	【第1学年】 ●日記は引き続き、行事が終わった後、週末の宿題で出し、書くことに慣れるようにする。 ●学習の振り返りでは、言葉で伝えるとともに、タブレット端末を使ったり、ノートを使ったりいろいろな方法でできるようにする。 ▼デジタルドリルを利用した計算の復習や授業はじめに計算を取り入れるようにして定着させる。 【第2学年】 ●国語の教科書の音読に加えて詩の音読を課題に出し、家庭と連携して、引き続き行う。 ●数量感覚を養えるよう、体験的活動を取り入れた学習を行う。単位関係についても定着を図れるよう、繰り返し指導する。 ▼ノートの状況の確認や定期的な漢字小テストに加え、漢字プリント等も活用する。 【第3学年】 ●自分の意見や理由も合わせて発表する機会を増やし、筋道を立てた話ができるようにする。 ●さらに四則計算が定着できるようベーシックタイムの算数を活用し、計算練習を取り入れる。 ▼引き続き、体験や調べ学習を通して書くことを取り入れる。 【第4学年】 ●国語辞典に比べると漢字辞典の活用が少なかったため、より多く活用できるようにする。 ●望ましい話し方、聞き方のルールを定着させた上で、話し合い活動を引き続き取り入れていく。 ▼引き続きプリントやデジタルドリルを活用するとともに、個別の支援を行っていく。 【第5学年】 ●行事ごとの振り返りなど、書く機会を継続的に設けていく。書く、まとめる活動については、ICT機

の考えやわかったことなどを、まとめて書くことができるようになってきた。

▽体験活動が、数量や重さなどの理解と結びついておらず、定着を図ることができていない。

▽辞書の活用については、自主的にできる児童が少なく、促してもできない児童もいる。

【第6 学年】

○振り返りの時間や、個人で考える時間を確保することで、考えや意見などを、学習言語を用いてまとめたり表現したりすることができるようになってきた。

○朝学習や家庭学習を通して、学習したことの復習、特に概念の理解に関する問題を積み重ねることで、単元テストで安定して高得点を取ることができる児童が増えた。

▽積み重ねが充分できていない児童について、学習定着度の個人間の差がより顕著になっている。

器も積極的に用いて、パターン化したり、他者の考えも見られるようにしたりして、効果的にできるようにしていく。

▼デジタルドリルを活用し、繰り返し学習を行うことで、定着を図っていく。

▼国語科問わず、辞書を使う機会を意図的に増やし、語彙力を高めていく。

【第6 学年】

●ICT 機器を用いて振り返りや考えを共有する時間を確保し、互いにコメントしたり評価したりする活動をすることで、課題に対しより深く考えることができるようにする。

●学習したことを忘れないよう、既習事項について繰り返し確認する。授業のはじめや終わりに復習の時間を設定するとともに、問題の見直しや間違えの直しを徹底することで、自ら正しく書いたり解いたりしようとする意識をもつことのできるよう指導する。

▼個別の支援や課題の調整を行い、一人ひとりの定着度に見合った学習ができるよう支援する。